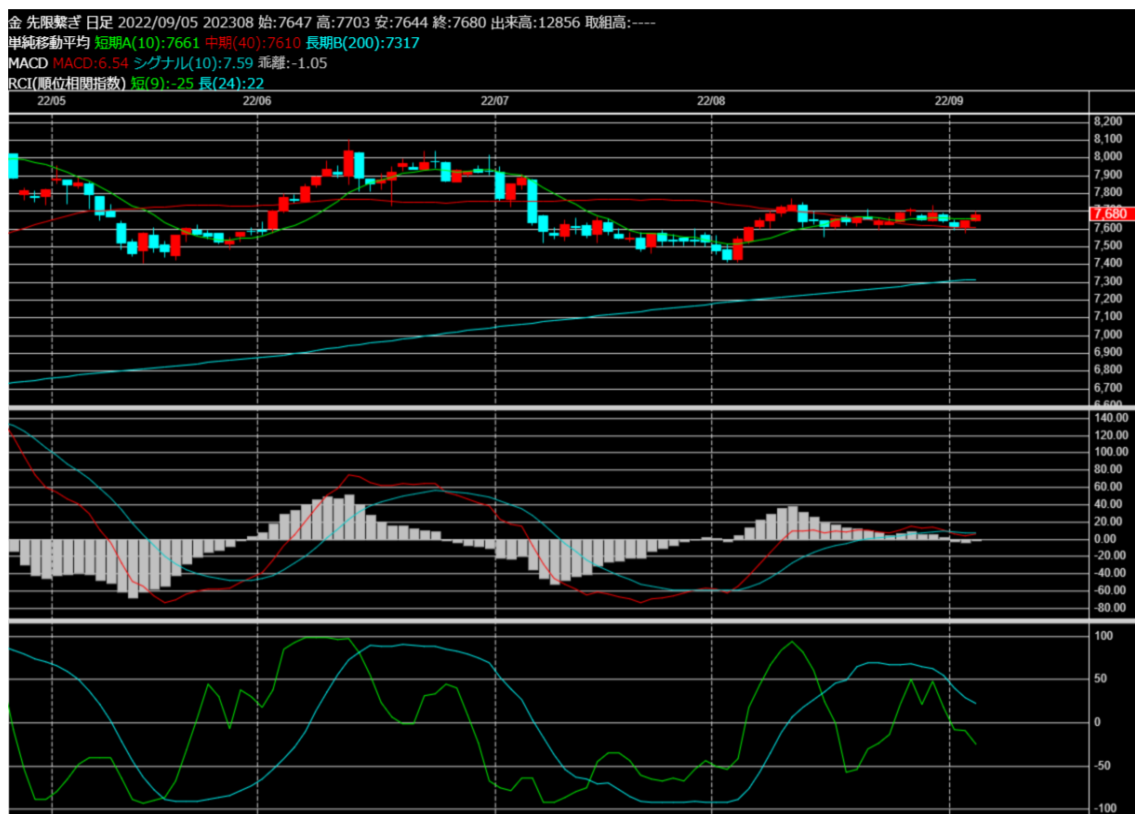


＜金標準先物、円安を受け 7600 円～7700 円のレンジ相場・・・＞



(出所：オアシス)

週末の雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想を上回る 31.5 万人増となったが、失業率は 3.7%と半年ぶりに上昇を示し、労働参加率でも 62.4%増と大幅な伸びを見せ、ジャクソンホールでパウエル FRB 議長が指摘した労働市場は「明らかにバランスを欠いている」との発言から改善する動きを見せている。そのため 21 日の FOMC において 0.75%の利上げ観測が後退したが、21 日の FOMC における FF レートの 0.5%以上の利上げを否定する事は難しく、金利を生まない金価格においてジャクソンホールでのパウエル FRB 議長の発言は、金の購買意欲を減少させる要因になったと見られる。

特に NY 金は、インフレ抑制に伴う金利高はドル高が進むため 1600 ドルに向けた予想が出ているが、金標準先物は円建て取引であり円安が進む環境下では下げ渋る展開が予想される。特に NY 金は 8 月 15 日から 9 月 2 日まで 1818 ドルから 1700 ドルまで 118 ドルの下落を示したが、同期間の円建て金は 7700 円から 7645 円と 55 円程度の下落しか見せていない。そのため金標準先物は、7600 円～7800 円のレンジ相場が続くと思われる。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が切り上げながら **シグナル** は維持するなど乖離幅が縮小している。RCI では、**短期**と**長期**が下向きで推移しており、弱気の域と判断する事ができる。そのため RCI における**短期**が**長期**を上回るクロスが発生を機に新規買いを行うのが妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,943,000 円(2022 年 9 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 9 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>